

「常識とは現實(場)に従ひ(適應正常し)、現實に教へられる考へ方であり、生き方」、即ち「常識に還れ」とは、「現實と言ふ場との關係を適應正常化させる」考へ方、生き方をしろ、と言ふ事になる。

*せりふ(言葉・物)との附合ひ方、扱ひ方。即ち「フレイジング」、「So called」、「型・仕來り・生き方・様式」の用ゐ方の適不適で、場との關係(D1)を適應正常化(非沈湎)させる事が可能となり、また反対に適應異常化(沈湎)に陥らせる事にもなり得る。

*下圖は、「言葉・物(F・圖)を生き物として附合ふ」即ち、「生き物として」と言ふ、「So called」化、「Eの至大化 = 自分と言葉(物)との距離の測定」が出来てゐる状態。

*「自分と言葉(物)との距離の測定が出来る」とは「言葉(物)を自己所有化する」と言ふ事。即ち、意識度を高くし、言葉(物)の用法に細心の注意をし、「言葉(物)を自分から遠く離す事によつて、逆にその言葉を精神化し、支配、操作する事が出来る様になる」(P391全七)。さうする事によつて「自分に近付け、言葉を物そのものから離して自分の所有にする事が可能になる」。

